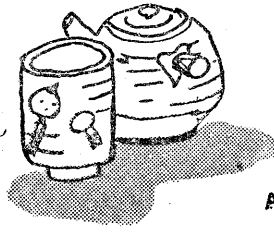


「この頃の私の幼稚園」



Ai

佐藤 実

自然に生きる子

私の幼稚園の子供達は、五千坪の遊園地に野兎のように嬉々として生活している。

自由ブランコ、腰掛ブランコ、遊動長ブランコ。シート乗り、舟のメリーゴーランド。木馬のメリーゴーランド。電気機関車の豆汽車等に乗っている者。回数を数えて順番を待つ者。孔雀や鳩、家鴨、鷺鳥、小鳥に見とれている者。小猿、大猿に興ずる者。子鹿に

餌を与えている者。兎やモルモットに野菜をやっている者。音楽堂で「お歌をうたったりお遊戯をしたり劇ごっこをやっている者。三十米のすべり台から軽快に滑っている者。砂場で山や川を造ったり。ケーキを作って喜んでいる者。あずま屋に腰を下して、眼下に開ける仙台市の全貌や、遙かに泉ヶ嶽の秀峰を望み、蔵玉の雄姿に心引かれる者。青草に寝転んで「つぼすみれ」を摘む者。蝶の後を探索網で追いかける者。崖の綱につかまってターザンゴッコ、ゴジラゴッコをしている者、莫蔭を青草の上に敷いて、ままごと遊びに余念のない子等。涼台で数人集って絵本を見て話している者。豆汽車の踏切番をする者。仙石線の電車の通過に万歳を叫ぶ者。電車や動物や植物園の花を写生している者、等々。老杉の聳立している間に四季の草木が節々の葉や花の色彩を換え、蝶、蛙、かたつむり、蟬こおろぎ、とんぼ等は子供達のよい友となってくれる。冬は雪合戦、雪兎作りそり遊び等山坂、平地を利用して楽しい生活をしている。市街地に住みながら、この様に、自然に伸びている子等は私の園児一四六名である。四十二坪の園舎は粗末ではあるがこの青空の

大自然を日々生活に取り入れる子等は幸であると信ずる。

私は子供が大好きである。童心そのままゴジラゴッコのゴジラになったり、青草に寝転んで童話や紙芝居に子供と共に楽しい生活をしている。五千坪の園地の周囲には金網の柵があつて外部からの危険を防いでいる。

先生方の採用条件の第一は「子供好き、健康体であることである。従つて当園の先生



クリスマス仲よし会・劇「サンタのおじちゃん」

園児と園長の共演（新しい趣向でバツクに飾りつけたところ。もみの木を使わない）

五名は、明朗且つ童心そのものである。

看護に、その無いことは勿論で安全教育第一主義をモットーとして学級経営に当たっているのである。

顕微鏡をのぞく子

「さあ皆さんのお手々をくらべっこしましよね」と、担任の先生が、万年筆型のポケット顕微鏡を取り出すと、「僕の手を先に見せて下さいね」「私の手、バイキンついていないかなあ」等言いながら先生の前に一列に並び自分の手を眺めている。

「あつ僕の指、黒いバイキンついている」

「私の爪こんなにきれいよ、ね、先生」

「そう、道子ちゃんのお手々はきれいね、おりこうね」と賞めて頂くと嬉々として皆を呼んで来ては、手洗いのお世話をする。

水道のカランから流れる水は半開きの栓から、つましやかに次々と子等の手を清潔にしてくれる。躰は身近かな処にあるので理論でなく実践そのものである。

「手を洗いなさい」「汚いことをしてはいけません」と言う愚劣さを演じないで、手を洗うべきことが理解され、水道栓を半開きにし

て適度な水の流れを利用することを身につける経済観念の素地を作ることもなる。

「蠅の足、見てごらん、こわいよ」

「蝶々のはねのこな、きれいだよ」

「チューリップの花のこな（おしべ）卵のようだよ」と、小型顕微鏡からのぞいては、大発見に眼を輝して、先生に或は友達に、或は家庭でも話し合うという子供達は幼い科学者の姿である。

私の考案に成る仙台市地図に当園の位置に小さい孔があつて、簡単なスイッチを押すと立てかけたその板の裏から豆電燈がつく。又立てかけた板に美しい絵が貼つてあつてその一隅に呼鈴が取付けてある。簡易なスイッチを押すと可愛らしく鳴り出す。

子供達は長短、断続、自由に玩具として遊びながら、電燈、電話等の原理を自ら学んでいる。一、五Vの乾電池の十、一がわかる。或る子供は故障を発見してお互に試している。完全に電燈がつき、呼鈴が鳴つた時の喜ぶ様は誠に晴々した空の太陽を仰ぐ感じがする。

日常生活がもっと科学的にならなければ何時まで経つても日本人の生活は向上しない。

科学は身辺にあるので、ガラス槽に金魚や蛙や蛙やかたつむり、こおろぎ等を飼ひ、鉢に草花を植へ、継続観察している子も居る。雑草に寝転んで、花摘み、お細工、絵を描くこともする。崖から岩を掘り彫刻したり、美しい石ころを、ちり紙に包んで大事に家に持ち帰つて、菓子折箱の空箱に蒐集する者もいる。

良信ちゃんは蚕を卵からかえて養ひ、繭にし、蛾にし又卵にと蚕の一生を自分の手で観察している。

入園早々の、四月の始め遊園地のおじさんからひよこを二羽ずつ貰つた。園児の誰も二三日でひよこの墓を作つてやつたと報告して来たが健ちゃん和幸福ちゃんは、みかん箱にもみながら糞を入れ、電燈をつけて暖をとる、毎日愛情を傾けて育てた結果、今では立派な親鶏となつて、歌もうたえ、卵を生むのも居るのである。登園、降園には、時々ひよこの様子を私に話すことを楽しみにしていた。その育て上げた根気のよさには、むしろ家族の方々は驚いて毎日の苦勞を語っておられた。

幼い科学者には情操と科学とに何等矛盾が

無いのである。

楽書らくがきする子

参観人のある度に私は「私の幼稚園の何処でもよいから落書を探してごらん下さい。一つ百円の懸賞を付けましょう」と戯談乍ら自慢するのである。子供には落書でなく、楽書らくがきさせることである。常に黒板にチョークで楽書自由である。鳥の子全紙大の衝立面板六面には泥絵具又は水彩絵具で楽書している。各自は自由帳を持っていて鉛筆やクレパスで自由表現している。或者は花を、自動車、人物を、風景を、或者は自分の氏名を、友達の名を、家族の名を筆順や配列等かまわず氣の向くまま楽書している。落書を禁止する前に楽書をさせて子供のはけ口を開いてやることにしている。

書くべきところに書き、描き、書くべからざるところに書かない躰をつけて置けば便所や、板塀、腰板、ガラス窓に悪戯の落書らくがきをしないものである。

子供は友達同志でよく喧嘩をする。そのくせ仲直りも案外早い。

入園當時は子供同志で喧嘩がしばしば起

る。その時は「おや相撲やってるね。どっちも負けるなよ。ああ此処は危いから草原がいね。それとも砂場かな。皆、丸くなつて応援しようね」と、安全な場所を選んで、私が行事となつて相撲とりをさせると、もう子供は喧嘩でなくなる。僕も僕もと次々に可愛い関取りが出て来る。盛んな応援に精一ぱい力競べをする。その結果、組の誰さんが強い。その次は誰、その次は僕だ。等と話し合つてもう横綱から幕下まで決ると喧嘩が無くなる。正々堂々の相撲で体力の順位がきまり、上を越そうと努力する。消極的な弱虫には私が投げられて負けてやることもあつて、笑いの中に喧嘩をしなくなる。意地悪をしないと

いう名実共に仲よし幼稚園となるのである。便所の履物は行く時、直ぐ履けるような向きに並べて帰りにぬぐことにしている。時に乱雑な履物を整頓する子が多くなつた。

智恵子ちゃんちえこちゃんは家族の履物をきちんと揃えてやるので今では誰一人として乱雑に履物をぬぎ棄てる者が無くなつたと感心して、お父さんから話された。

園児のこうした躰の實踐が家族の躰となり出入りの客までが感化され波及することは嬉

しい限りである。

ともすると躰を強要する傾きがあるが私は童謡、実話紙芝居、幻灯、ペープサート、人形劇等を通して、幼児の人格を尊重し、話し合ひで決め、約束したことは必ず実行する責任を持たせることにしている。それで先生方には「しなさい」という命令と、「やめなさい」という禁止の言葉を使わないことにしている。

「こうしたらどうなるの。こうした方がよいと思うが〇〇ちゃんはどう思うの。こうしたしましようね」とか、「それはあぶない遊びでないの。こんなことはわるい遊びでないの。そんな遊びはよい遊びかなあ。だから、こんなあぶない遊び、わるい遊びはもうしませんね」とか、子供の要求や行動について結果はこうなるからこうすればよいのだと、子供なりによく納得させて躰をしているので、正しい道徳的判断の芽生えが伸びて来るのである。昼食時の挨拶は歌につれて手洗い弁当の用意、次に「お父さんお母さん、いただきます」と身近かな両親への感謝を捧げるのである。

小学校入学前に躰けて置くべきことが多々

あるのを見逃してはならない。

ロと目と耳のよい子

子供には自由に屈托なく話させるようにしているが、仙台弁といって地方訛や方言が多いので、ことは遊びをしながら興味を持たせて矯正している。室内拡声装置が設備されてあるので或時はマイクから子供達に話しかけさせる。マイクを通すと明瞭に誤りが発見されるので矯正し易い。ままごと遊びの挨拶や会話も言葉の指導に重要である。クリスマス仲よし会の劇を十寸のレコードに吹込んで採って、後で子供達に聴かせ矯正指導や鑑賞用にと試みて好成绩を取めた。テープコーダーの活用もよいと思う。

物をよく見る習慣は幼児期から植えつけるべきである。それには幼児心理を考慮に入れて注意の持続時間とか興味とか、色形、動き等を研究して取扱うべきである。

「今日は月曜日だから紙芝居があるね」と私の紙芝居を待っている。私は只一卷を取扱うのであるが、伴奏は音楽の先生がしてくれる時々、観ている子供等から自然に歌が流れて来るそれは紙芝居を見ているのであるが絵紙

や説明に融け込んで感情移入の境地になつて指導精神を心の中に入れて入れているのである。幻灯機の設備利用については毎月の行事記録の写真のスライドを製作して反省資料にしているが天然色スライドに自己の姿を発見した時の子供の喜びは又と無い。八ミリ撮影機(米国製キーストン)による記録又は劇映画を映写機から映写幕に映写するのも同様で私の製作である。(私は映写技士の免許証を持っている。)行事毎の写真帳も貴重な資料であるし、月刊雑誌や絵本、漫画、童話の本等毎月購入しているが、子供等は見古しの絵本や雑誌を持寄つて学級文庫を作り物をよく見る習慣がついている。

朝には子供等の知っている童謡や音楽のレコードをかけラウドスピーカーから流れるリズム、メロデーに合せて山の上、森の中、草原、園舎の中から子供達の合唱する明るい声がこだまする。チャイムの五音が柔かな韻律を漂すと、手を洗い集合の心構えをする。振鈴が鳴り響くと、小栗鼠や野兎のように集合して、朝の挨拶、今日のホームルーム。仲よし体操、行進と、すべて音楽に始まり、音楽に終る園の生活である。

開園第一に子供のために設備したものの一つに、ドラム、ケース、トライアングル、タンボリン、ハンドカスター、リングベル、木琴、笛、ラッパ等々のリズム楽器があり仲よしバンドは行事の人気者の第一である。

音楽や歌をよく聴き、よく歌いよく踊るリズムの生活は、幼児の根本要素である。この訓練された子供こそ、人の話もよく聞き入れ自分の正しい意見を表明し得るよい人となるのである。

「お目々はぱつちり、お耳をあけて、

お話上手なよい子供」

物をよく見、何事につけても、よく聞き、充分理解したところで、自由に正しく話す態度を形成する序幕は何と言っても幼児期にあると思う。「この子はうるさいね。のぞいたりして、おしゃべりで。大人の話等聞いて。」等と叱つては、尊い芽生えが縮んでしまうことになる。

強い子よい子

雨や風の日には、「雨にもまけず、風にもまけず、強い子、よい子」と、朝の集会に力強く斉唱し、雪の日は、「雪にもまけず」と

一何加えて元気に遊び、お稽古に励むのである。

やがて成人して、詩を読む時期になり、宮沢賢治先生の詩を理解するであろうことを思えば、子供達の将来に光明の輝くことを信じて止まない。

カリキュラムは進展して止まないが季節と遊びと行事と学習とを織りなして実施している。毎月の行事生活に山を持たせ、身長、体重測定と並行して、遊びや学習、心の伸びの観察評価をしている。

行事としては、四月に、桜の名所榴ヶ岡公園の地続きにある当園では、「花まつり仲よし会。」を催し、世界の偉人釈迦の降誕を祝福して新入園児歓迎の会としている。五月に鯉のぼりを立て、鯉のぼり仲よし会体育会を催し、松島に遠足、七月は海水浴、九月は仲よし運動会で家庭の皆様と楽しい一日を過ごし、お明月仲よし会には園児の祖父母を招待して敬老の意を表し、孫の教育に対して意見の交換をし幼児教育の正しい在り方を把握して頂く、十月は秋の遠足で温泉を選び保健衛生と秋の山野の観察を行う、十一月は七五三仲よし会で当園の東隣の天満宮に参拝し千歳飴と

守符を全児に配り前途を祝う、十二月はクリスマス仲よし会、もみの木のかわりに愛林思想普及をかねて背景を描きそれに飾り付けた。新趣向にアメリカンスクール幼稚園児も喜んで交歓会を楽しく過した。一月は新年仲よし会で、かるたとり、みかんとり等、室内ゲームに花を咲かせる。二月は豆まき仲よし会で入園志願の子供達と豆まきや遊びをし当園理解の第一課とする。三月はひなまつり仲よし会で当園独自の私のデザインになるこけしびなを飾って祝う。卒園式並びに修了式には、よい子賞と強い子賞とを頂いて子供は一ケ年の園の生活を終えるのである。

この諸行事には、お父さんお母さんの会、「仲よし幼稚園清交会。」が設けてあつて清交会から一人当毎月二十円宛の贈物がある。清交会は各級から委員六名宛選出し委員中から委員長、会計、庶務を選出して、自主的に運営している和やかな強力な後援会である。

每学期当園発行「清交」誌は、子供の育て方行事、美談、諸報告を満載し、家庭から喜ばれている。

稍々もすれば何処の学校でも幼稚園でも、寄附を要求し保護者を困らせているが、私は

特別の寄附は絶対頂かない。ピアノも、電番も、拡声装置も、幻灯機、映写機、撮影機も運動会費も総べて園の経費で運営しているので、「寄附をとらない幼稚園。」として志願者が殺到するの無理はない。

幼児の世界には嘘がない。想像の世界、夢の世界、そして現実的である。私は毎日、表裏の無い世界に住むことが出来るのを心から感謝している。強い子、よい子と共に。

(仙台仲よし幼稚園)

▽教育実際指導研究会△

六月の教育実際指導研究会の期日が左のように決りました。

六月 九日(木)

六月 十日(金)

六月 十一日(土)

右お知らせ致します。

昭和三十年四月

お茶の水女子大附属幼稚園内

幼児教育研究会